

## 10月の植物 オオマルバノテンニンソウ（別名 ツクシミカエリソウ）（しそ科）

*Leucosceptrum stellipilum* (Miq.) Kitam. et Murata var. *radicans* (Honda) T.Yamaz. et Murata

9月ー10月の山野にはいろいろな草花が咲き誇ります。マメ科のハギ類、キク科、タデ科、シソ科など赤、黄、青、紫、白とその花の色も鮮やかです。特にシソ科の植物は日の当たる草地から湿地、林内と生育場所も多様で、白色から紫色まで大小の花を咲かせます。

今回はシソ科の植物の中でも大型の葉をもち花が派手なオオマルバノテンニンソウを紹介します。山地に生える多年草で、15ほどのぎざぎざ（鋸歯）のある大きな葉（長さ15cm、幅7cm）をもち、葉の先は尖り、葉のもと（基部）は柄（葉柄）に流れています。茎は四角で、葉は対生し、花は唇型をしています。これらはシソ科の植物に共通しています。庭先のシソの仲間を観察するとよくわかります。花穂（かすい）は長く伸び上がり、たくさんのピンクの花を咲かせます。葉の裏をルーペで覗くと小さな腺点がたくさんあり香気を放ちます。これも多くのシソの仲間共通しています。

ツクシミカエリソウの名は「振り向いてみるほど美しい」ので「みかえりそう」の名がついているそうです。テンニンソウは「よくわからない」と牧野新日本植物図鑑にあります。

県内では脊振山から天山、作礼山、黒髪山、多良岳など高所に稀に分布しています。

